

Ⅱ 日本語を母語としない児童生徒の教科指導

1 小学校 国語科

(1) 日本語を母語としない児童にとっての国語科

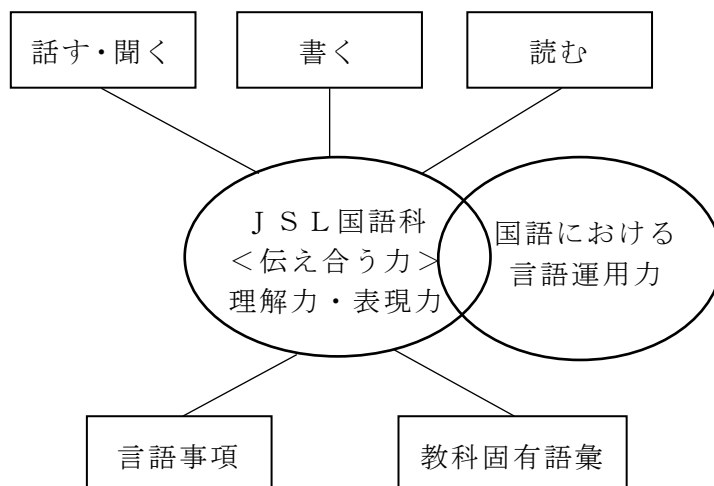
日本語での会話が流暢に感じられる児童でも、国語科の授業において日本語を用いた「伝え合う力」が求められている学習活動には十分対応できないという状況があります。国語科の学習における困難は、基本的に「伝え合う力」をめぐるものであり、日本語を母語としない児童には、以下のような点に困難な状況がみられます。

- ・相手に自らの考えや意見、気持ち等を分かりやすく順序立てて訴え、表現すること。また、相手の考えや意見、気持ち等を十分に理解すること。
- ・相手の問題や疑問を受け止め、自らの考えや意見を見直したり、向上・改善させたりすること。
- ・認知力の発達途上における概念形成の段階で、自らの問題点や疑問点を表現すること。

(2) J S L 国語科のねらい

J S L 国語科では、言語活動に参加するための言語事項や語彙に関わる「学ぶ力」や「伝え合う力」を身に付けるための「学ぶ力」の獲得を重視しています。言語そのものの伝授や習熟を目的とするものではなく、「伝えたい」という意志、「伝わる」という自信、「相手が理解できる」「理解したい」という気持ちを持ち、少しでも他者と豊かな言語活動を行うようにします。言語を手がかりとして論理的に思考する力や豊かに想像する力を育成し、言語に対する感性を養っていくところに、J S L 国語科の意義とねらいがあります。

(3) J S L 国語科の授業の構造



J S L 国語科では、学習活動の時間的な展開は多様であり、パターン化することは教科の特性としてなじまないため、言語能力別の分類を行います。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」それぞれの指導のために行われる言語活動を、基本的な授業の構造と捉えます。

(4) 学習活動の例 1～6年共通 読むこと

もとにもどしてー！

ーバラバラになった物語をもとにもどそうー

日本語の力が十分でない児童を想定。

学 習 活 動	○教材	伸ばすべき国語力・日本語力
一 次	<p>1 物語を聞く。</p> <p>2 物語の紙芝居（挿絵）をばらばらにし、正しい順序に並べ換える。</p> <p>○紙芝居の縮小コピーを貼り、その側に文で記入するワークシート</p> <p>3 並べ換えた紙芝居（挿絵）を基に、子供の言葉で物語を再現する。</p> <p>4 物語を記入する。</p> <p>○ワークシート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい語彙の学習 場面の移り変わり 場面の情景・様子 心情を表す言葉 等 ・大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞く。 ・順序を考えながら聞く。 ・場面の移り変わりや情景を思い浮かべながら読む。 ・事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話す。 ・筋道を立てて話す。 ・事柄の順序を考えながら、語と語や文と文の続き方に注意して書く。
二 次	<p>5 絵にかえて「短冊にした文章」をばらばらにして並べかえる。</p> <p>○文章の短冊</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・段落相互の関係を考えながら読むことができるようにする。
三 次	<p>6 自分の気に入った場面、心に残った場面を選んで、絵と感想を書く。</p> <p>○絵と感想が書けるワークシート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的を考えながら書く。 ・自分の考えが明確になるように、簡単な組み立てを考える。 ・書こうとすることの中心を明確にしながら書く。

【支援のポイント】

場面の移り変わりや様子、心情を表す言葉の部分はゆっくりと、必要に応じて説明を加えながら読む。

必ずしも正しい表現でなくても、内容が把握できていればよい。

物語の進行に必要なキーワード（登場人物、時間経過、場面、情景等）を押さえる。

教師・指導者がわざと間違えたものを提示し、どこが、なぜ違うのかを指摘させてみる。

表記上の正確さはあまり求めない。物語の進行上、必要最低限の記述に絞らせる。

発達の段階や日本語能力に応じて、絵と文章を両方織り交ぜ、最後に文章だけで並べかえられるようにする。

どんな場面のどんなところをどう思ったかを記入できるように支援する。

2 小学校 社会科

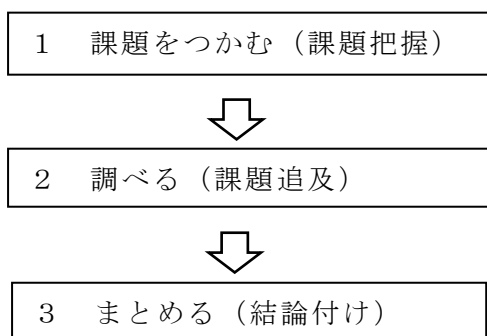
(1) 日本語を母語としない児童にとっての社会科

日本語を母語としない児童は、生活体験や事前の情報接触の不足により、教室での学習のほとんどが新情報で、生活実感を伴わない内容であり、参加が困難になると考えられます。また、社会科の特徴といえる地図、地球儀、統計的資料や表、グラフ、年表等を活用する授業では、資料の活用ができるかどうかが重要となります。これらの社会科に必須の学習スキルを運用できなければ、授業への参加は難しくなります。社会科の資料の多くは、言葉や記号が使われているため、母国で資料活用ができた児童であっても、日本語や日本で使っている記号、単位についての理解力や知識が不十分であれば、資料の活用は難しくなります。

(2) J S L 社会科のねらい

J S L 社会科では、日本語を母語としない児童が、日本語の不十分さを文脈等からの情報によって補いながら学習に参加し、社会的なものの見方や考え方を身に付け、知識や概念を日本語と共に習得して行くための「学ぶ力」を獲得することをねらいとします。その際、学び方や調べ方を身に付ける体験的な学習や問題解決的な学習に参加する力を育むために、①「流れを重視するアプローチ」（問題解決的な学習の流れを体験させる）と、②「スキル運用を重視するアプローチ」（地域の社会的事象を観察・調査する、地図や統計的データから情報を得る、情報を分析・整理する、グラフや表で表す等の活動に参加する力を高める）の2つのタイプの学習活動に参加する経験を通して、日本語力が引き上げられると考えられます。

(3) J S L 社会科の授業の構造



【問題解決的な学習の基本的な構造】

- ①「流れを重視するアプローチ」では、左記のような問題解決的な流れに乗って学習を進める方法が培われます。
- ②「スキル運用を重視するアプローチ」では、「情報収集・処理する活動」と「表現活動」といった学習スキルを運用して行う課題を中心に、いくつかの活動を組み合わせて構成します。

(4) 学習活動の例① 5年

「流れを重視するアプローチ」これからの食料生産

語彙を獲得して、意欲的に発言する児童を想定。

学 習 活 動 ○教材	活動を通して学ぶ言語表現
1 日本で売られている母国の食料品を知る。	【語彙例】 食料、生産地、農産物、水産物、畜産物、国産、輸入、国名（ブラジル、ベトナム、中国等）
2 食料品の広告や製品ラベルを集めて、食料の生産地を調べる。 ○ラベル、広告、カード用厚紙	【表現例】 ○視点を決めて整理する ～は～からきました。 ～は～を～から輸入しています。
3 世界地図に食料品ラベルを貼る。 ○世界地図	○調べたことを地図にまとめる ～があります。
4 作業をして気付いたことを短い文章で表現する。 ○ワークシート	○分かったことを文章でまとめる ～して、～が分かりました。
5 気付いたことをクラスの友達に発表する。	○報告会をする ～について報告します。

【支援のポイント】

母国の食料品が日本でも一般的に利用されていることを知ることによって、学習意欲が高められるようにする。

都道府県別の分類は難しいので、大きく日本国産と輸入に分け、世界地図に表すようにする。

広告や製品ラベルをカードにしたり、分類したりする活動を行う中で語彙を増やすようにする。

(5) 学習活動の例② 6年

「スキル運用を重視するアプローチ」歴史への入り口

日常会話はできるが、教科特有の言葉が苦手な児童を想定。

学 習 活 動 ○教材	活動を通して学ぶ言語表現
1 時代ごとの絵、写真や資料を見て、各時代の特徴を探す。 ○写真、資料	【語彙例】 「今からどれくらい前か」「今とちがうところは何か」 時代（江戸、明治、大正等） 歴史上の主な人物の名前 主な出来事（戦争、幕府、将軍、貴族、武士等）
2 資料を比べ、時代の古い順に並べる。	【表現例】 「絵・写真・映像を読み取る」 ・～が描かれています。
3 日本の歴史年表の見方を知る。 ○簡略化した年表、時代とその特徴を表す語彙カード	「比較して結論を出す」 ・～と～を比べてみましょう。
4 写真・資料を年表上に貼って、時代の大きな流れを知る。 ○1で利用した絵・写真・資料、年表	「年表や暦を読み取る」 ・～が分かります。 ・～年に、○○がありました。

学習の鍵となる語彙に、写真や絵に添えて示す。

写真や動画を見せ、歴史の流れを確認する。

服装・建物・食べ物等で時代の特徴が分かるような資料を用意する。テレビ番組や映像資料でもよい。

時代順に絵や写真を並べたら、時代名を示す。（語彙カードにする）

3 小学校 算数科

(1) 日本語を母語としない児童にとっての算数科

算数科の学習活動の中でも、計算等の言語を使用しない操作活動は、出身国で既習の学習項目であれば、日本語を母語としない児童にとっては理解しやすい学習活動となります。また、文章題の一部等、言語を媒介とする操作であっても、出身国で既習の計算の範囲であれば、理解しやすい日本語に置き換えることで、日本語を母語としない児童にとって比較的取り組みやすい学習活動となります。

一方、算数科では、数学的な思考方法と論理構成の下で、数量や図形についての概念、法則等を理解し、計算したり測定したりするといった技能を身に付けていくことが求められます。このような活動には、言葉が介在しているため、日本語がまだ十分ではない児童や、実物や直接体験を支えに知識を関連付けたり具体化したりして算数を学ぶ経験が少ない児童は、この過程だけでは学習しにくくなります。

(2) J S L 算数科のねらい

J S L 算数科のねらいは、作業的・体験的な活動等、算数的活動に参加し、概念や原理、表現方法や測定方法等の知識や技能を身に付け、考える力を高めていくための力を身に付けることです。算数科の学習の流れを多様に体験させ、学習活動に参加できる力の獲得を目指すとともに、類推する・計画を立てる・順序を考えるなど算数を学ぶことで身に付くことが期待される力を養うことを重視します。

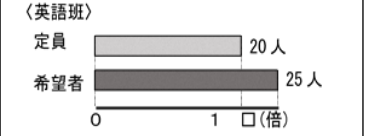
(3) J S L 算数科の授業の構造

算数科の授業の構造は基本的に、「問題の把握」→「解決の計画」→「計画の実行」→「実行した結果の検討」という流れになると考えられますが、J S L 算数科として行う学習活動はこの流れに当てはまらない場合もあり、算数科の構造を固定的に考える必要はありません。題材や活動、児童の状況から設定した学習目標により、流れの中の一つを抜くことや、1時間の指導時間に当てはめず、単元の中で時間をまたいでこの流れを構成していくことも考えられます。

日本語を母語としない児童にとっては、「解決の計画」段階で活動や課題を理解することが難しいため、この段階で求められる事柄にどう対応していけるか、それを支援するにはどうすればよいかを、重点的に考える必要があります。

(4) 学習活動の例 5年 百分率とグラフ

2つの量を比較してみよう

	学習活動 ○教材	活動を通して学ぶ言語表現												
問題の把握	<p>1 学習課題をつかむ 問題「体験学習の参加希望者を募集したところ、定員と希望者は下の表のようになりました。どの班が最も参加しやすいでしょうか。」</p> <p>体験学習の希望調べ (人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>班</th> <th>定員</th> <th>希望者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英語</td> <td>20</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>習字</td> <td>10</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>落語</td> <td>30</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ワークシート</p>	班	定員	希望者	英語	20	24	習字	10	15	落語	30	24	<p>活動を通して学ぶ言語表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○比較して考える <ul style="list-style-type: none"> ・何と何を比べますか。 ・もっとも参加しやすいのはどれでしょうか。 ○比べながら観察する <ul style="list-style-type: none"> ・英語班と落語班で違うところはどこですか。 ・どこが違っていますか。
班	定員	希望者												
英語	20	24												
習字	10	15												
落語	30	24												
解決の計画	<p>2 答えの予想を立て、解決の方法を考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○情報を収集する <ul style="list-style-type: none"> ・どこが参加しやすいかを調べるには、どうすればよいですか。 ・何か知りたいことはないですか。 ○作業の仕方に着目する <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに～をして、つぎに～をします。 												
計画の実行	<p>3 計算したり答えを求めたりする</p> <p>○ヒントカード(線分図等が書かれたもの)</p>  <p>(英語班) 定員 20人 希望者 25人 0 1 □(倍)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○考えたことを表現する <ul style="list-style-type: none"> ・この計算についてどのように考えたのか、順に話してください。 ○絵や図で表現する <ul style="list-style-type: none"> ・絵を使って説明してください。 ○意志決定する <ul style="list-style-type: none"> ・どちらを選んだか、理由も言ってください。 												
実行した計画の検討	<p>4 それぞれの考えを発表し、検討する</p> <p>「希望者が定員の何倍になるかを表す数を、希望者の割合ということ」を理解する。</p> <p>5 学習したことをまとめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○考えたことを表現する <ul style="list-style-type: none"> ・考えたこととその理由を教えてください。 ○情報を関連付ける <ul style="list-style-type: none"> ・～と～はどんな関係がありますか。 ○結論付ける <ul style="list-style-type: none"> ・そう考えた理由は、何ですか。 ・どうして、そう考えたのですか。 ○分かったことを表現する <ul style="list-style-type: none"> ・分かったことを言ってください。 												

ある程度、日本語を理解しており、教科特有の言葉を使いこなしたい児童を想定。

【支援のポイント】

学習課題がつかめないうちは、数値が簡単な場合について考えさせたり、「英語と習字はどちらが参加しやすいですか」「英語の班と習字の班はどちらが入りやすい？」等と問いかけたりする。

「英語」班と「落語」班を比べさせ、参加者の人数が同じであれば比べられることを理解させる。その際、定員が同じでも比べることができることも理解させる。

発表する児童には、自分の考えを順序よく説明できるように準備させる。画用紙等に図や式を大きく書かせてもよい。

学習したことを自分の言葉でまとめさせる際、うまく書けない児童には、友達のよい考え方を参考にして書かせてもよい。

自分の考えのよいところ、友達の考えのすばらしさ、新しく分かったこと等を振り返りとして書かせる。

4 小学校 理科

(1) 日本語を母語としない児童にとっての理科

観察・実験等、具体的な現象を直接体験する学習活動が中心であり、また、グループ単位での学習活動も多い教科です。直接体験、具体物による支え、他の児童のサポートが得やすいため、日本語を母語としない児童にとっても理科の学習活動に参加することは比較的容易です。

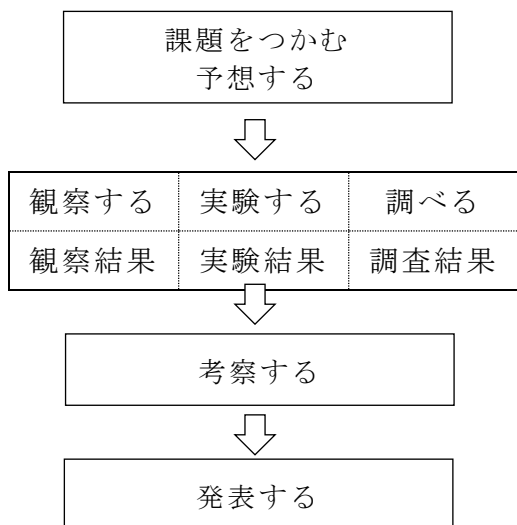
一方、学習活動から得た体験を、科学的なイメージや概念として捉え直し、事象の性質や規則性等の自然の特性を理解し、科学的な見方や考え方を構築するのは難しいことです。これは、日本語を母語としない児童に限らず理科を学習する児童すべてに共通した課題であり、日本語を母語としない児童とその他の児童の間に本質的な違いは存在しません。しかし、日本語を母語としない児童は、この作業を外国語である日本語で行わなければならないため、その他の児童に比べ、より一層の困難が生じます。

(2) J S L 理科のねらい

J S L 理科では、理科の学習活動に参加し、日本語で「学ぶ力」を獲得できるよう支援することをねらいとします。実験、観察、グループワーク等、日本語を母語としない児童が授業の流れに乗るための「学ぶ力」を活用し、深める機会を設け、実体験の捉え直しに関わる「学ぶ力」を獲得し、活用するための支援を行います。

(3) J S L 理科の授業の構造


【 J S L 理科の授業の基本的な構造 】




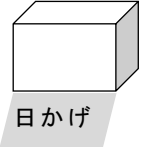
J S L 理科では、学習活動の展開を、通常、教室で行われている展開と同じく、「課題をつかむ」→「予想」→「観察・実験・調査」→「考察」→「発表」と整理します。


(4) ワークシートの例 3年 地面の温かさを比べよう
地面の温かさを比べよう


日なたと 日かげを 比べよう① 名まえ

 もんだいを 書きましょう。
もんだい





日かげ 日なた


 あたかさは ちがうでしょうか。よそを 書きま
しょう
よそう


 くらべかたを 書きましょう。
かんさつ
①どこを

②どうやって

 わかったことを 書きましょう。

日なた	
日かげ	

 わかったことを はっぴょうしましょう。
日なたのじめんは、日かげのじめんより…

 ほかの 人の はっぴょうで よかったところ、
自分とは ちがう ところを 書きましょう。
【れい】 ~ということが わかった。
~さんの~がよかった。
~さんの いけんは、じぶんのと~が ちがった。

書く、話すなど、日本語の力が不十分な児童を想定。

【支援のポイント】
中・高学年になると分かれ書きをしなくなるが、日本語力が不十分な児童には分かれ書きが必要である。

言葉だけでは分からないような語句や文は、絵や図を添える。

学習の流れが分かるよう、学習の段階を示すマークを統一する。

比較を容易にできるように、表で示す。また、全文を自力で書くことが困難な場合は、ヒントとして前段を示しておき、後段を話したり、書かせたりする。

発表や、まとめ、振り返りをする際の参考になるように、例を示しておく。

(参考) CLARINET へようこそ 学校教育における JSL カリキュラム(小学校)編 理科：文部科学省

5 中学校 国語科

(1) 日本語を母語としない生徒にとっての国語科

- ① 言葉の指導は以下の3つを原則とします。
 - ・言葉の理解と表出を同時に要求せず、十分な理解の段階を確保すること
 - ・言語獲得は文法理解からでなく、生徒にとって意味のある言葉との接触によること
 - ・話し言葉によるコミュニケーション力を身に付けさせた上で、書き言葉への指導に移ること
- ② 教師は自身の使用する日本語を意識し、文法・語彙の知識や聴・読解力が十分ではない生徒にとって言語的に理解可能な日本語を使います。
- ③ 文法や文字に関する指導、母語との比較などを通した日本語の構造や特性を理解させる指導は、毎日、短時間の取り出し指導として継続的に行います。辞典を引き、分からない単語の意味を書きためることも効果的です。

○ 単語カードの作り方(例)

- ア 左上をリングで留める。
- イ 各学習教材を学習しながらカードを作っていく。
- ウ 見出し分類に従って「あいうえお」順(辞書順)に並べ替えていく。
*各行、色を変えて示すとよい。
- エ 一年間で一冊の単語カード帳を作る。

《 単語カード 》

リング穴 (よみがな) 単語	日本語の意味	品 詞	見出し分類
母語での意味	用 例		対 義 語
	(用例)		
	(母語訳)		

(2) J S L 国語科のねらい

- ① 学年の枠にとらわれず、身に付けるべき日本語の力を考えて言語活動を設定します。日本語を使って話す、聞く、書く、読むという言語活動は、生徒にとって貴重な自己表現、他者理解の過程となり、自分の伝えたいことを言語化すること自体が、言語習得を支え促進するための活動となります。なお、古典の作品は、現代文の作品に比べ、内容的にも言語構造的にも分かりやすく、作品の大意を理解し雰囲気をつかんで学習することは比較的容易です。
- ② 中学校国語科の在籍学級での授業には、日本語の読み書きのための高度な理解と表出が求められるため、対象生徒の学習内容を焦点化したり、優先順位を付けて指導したりして、学習負担を軽減します。

(4) 学習活動の例 2年 随筆を読もう ～「字のないはがき」～

親の子を思う気持ちは万国共通であり、JSL生徒にも十分に伝わる作品です。起承転結もはっきりしており、文章構成の理解や作文にも発展できます。

- ・指導形態 取り出しと在籍学級での指導
- ・目標 読解（読み取り）におけるつまずきを取り除き、文章の展開に即して内容を捉え、筆者の心情に迫り、自分の感想をもつ。
 - A 読解のための補助的な学習ができる。
 - ア 全文を音読できる。
 - イ 全文のことば（単語）の意味が分かる。
 - ウ 文中に描かれている時代背景・時代状況を理解できる。
 - エ 文中の登場人物を把握できる。
 - B 読解（内容を読み取ること）ができる。
 - ア 話題の展開をとらえることができる。
 - イ 主題（テーマ）をとらえることができる。
 - C 感想をもつことができる。
 - ア 主題（テーマ）に対する感想をもつことができる。
 - イ 感想を伝えることができる。

補助活動 文中の言葉から当時の歴史年表を作り、作品に書かれている時代の状況や同時代の母国の状況を知ることができる。

日常会話はできるが教科学習を日本語で行うには困難な生徒を想定。

	学習活動	伸ばしたい学習スキル
第1次	聞き取り（第一回） 範読を聞き、漢字に読み仮名を振る。	・長音・拗音・促音・濁音・半濁音が聞き取れる
1時間	聞き取り（第二回） 意味の分からない言葉に色ペンでマークし、単語カードに書き写す。	・母語にない音を聞き分けられる。 ・意味の分からない単語を自分で抜き出すことができる。
	黙読 登場人物を色ペンでマークする。	・登場人物を捉えることができる。
	音読 登場人物を書き出す。	・登場人物相互の関係が分かる。
	作業 文中の時代（年代）、時期などが分かる言葉に色ペンでマークする。	
	制作 文中の時代について日本と母国の歴史年表を作る。	・作品に描かれている時代の状況が分かる。

【支援のポイント】

分からない言葉を単語の単位まで絞り込ませる。

読めない漢字・読み間違えた漢字は家庭学習でノートに書き写させる。

登場人物に色ペンでマークし、視覚化する。

歴史年表を作らせる。空襲、学童疎開、食糧難等について補足説明をする。

6 中学校 社会科

(1) 日本語を母語としない生徒にとっての社会科

日本の地理、歴史、公民の内容の多くが、「ゼロ」からの学習となる場合が少なくありません。社会科で学ぶ知識や概念を表す言葉は、日常生活で学ぶ言葉とは大きく異なるため、日常的な会話ができたとしても社会科の学習内容を理解するのはたやすいことではないと考えられます。日常生活で用いる言葉と社会科の授業で学ぶ言葉とは大きく異なることをふまえた指導を行います。

(2) J S L 社会科のねらい

- ① J S L 社会科では、見方・考え方を育む探求型の学習に参加するための力を育むことねらいとします。それには、J S L 生徒の社会科学習経験や日本語の力を十分に考慮して作られた探求型の学習に参加する経験が重要になります。探求型の学び方を知ると同時に、社会科の基礎的な知識や学習スキルと、その知識やスキルを活用するための日本語の力を高めることが、在籍学級での学習への参加のための手がかりになります。
- ② 題材としてどのような社会的事象を取り上げるかによって、母国の地理や歴史との関連付けや比較ができる可能性があります。生徒から、母国での学習を通して得た知識や経験を引き出しておけば、理解を助けることができます。
- ③ 地図や主題図、図表、映像・写真等を利用することで、社会的事象に対する理解を深め、生徒の学習参加を促すことができます。

(3) 学習の流れ

在籍学級における学習活動例	
つかむ	①年表と歴史上の出来事や人物、建造物などの資料（カード型）を並べながら、日本の歴史の流れを大まかにとらえ、関心をもつ。
まとめる	②関心をもった事柄についてテーマを決定し、調べる計画を立てる。
広げる	③図書室、インターネット等を利用して資料を収集し、テーマについて調べる。
発信する	④調べたことをポスターにまとめ、報告会を行う。調べた時代を年表上で確認する。

(4) 学習活動の例 地理分野

目標 地球儀や世界地図を使って、日本の相対的、絶対的な位置の特徴を緯度・経度等から多面的にとらえることができる。

教師の指示を理解して、教具を使ったり、ワークシートへ記入したりすることができる生徒を想定。

日本の位置

	学習活動	指導上の留意点 ★教材
第1次 1時間	<p>日本と母国の位置を確認する。</p> <p>地球儀で日本の位置や特徴を考察する</p> <p>世界地図で緯度と経度から日本の位置と特徴を理解する。</p> <p>日本と同緯度、同経度の国々を世界地図で調べる。</p> <p>日本のまわりにある海の名称、半島や島を調べる。</p> <p>資料で日本と母国の面積を調べる。</p> <p>学習して分かったことを整理し、発表する。</p>	<p>・世界地図や地球儀で日本と母国の位置を指で示させ、気付いたことを発表させる。 ★地球儀、世界全図(地図帳)</p> <p>・地球儀の見方を確認する。 ・日本と母国の位置、方位について調べる。 ★地球儀、地図帳、白地図</p> <p>・日本と母国の位置を地図で確認し、白地図に色を塗らせる。 ・白地図に、東経 123 度、154 度、北緯 20 度、46 度の緯線、経線を記入させ、日本の領域をつかませる。 ・日本の領域の広さに気付かせる。</p> <p>・同緯度、同緯度上にある、アジア、ヨーロッパ、北アメリカの主な国に気付かせる。</p> <p>・白地図とワークシートに学習の成果を記入させていく。</p> <p>・日本は世界何か国中で何番目の大きさであるかに触れる。</p> <p>・ワークシートに記入して整理させてから、発表させる。</p>

【支援のポイント】

「東西南北」等、表現する上で必要な言葉を、板書して示し、読み仮名をふって利用させる。

地図を指し示しながらの発言等を奨励し、意味をくみ取って適切な表現に言い換える。

地理の基礎的な用語は、語彙カード等で示し、地球儀や白地図の上に貼る。

日本の東端、西端、北端、南端に位置する島を見付け、日本語で表現させる。

面積の単位(～万平方キロメートル)をあらかじめ示す。

7 中学校 数学科

(1) 日本語を母語としない生徒にとっての数学科

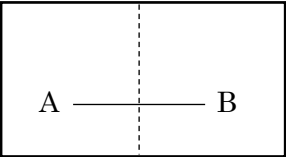
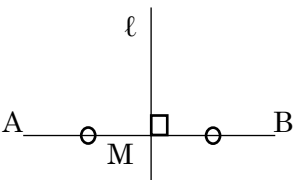
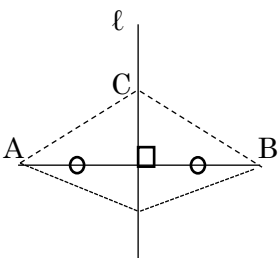
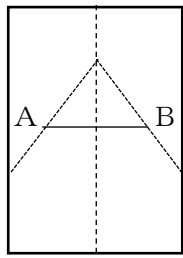
- ① 数学的活動の面から考えると、紙を折ったり図を描いたり、模型を仲間分けしたりすることや、観察・操作・実験等を授業に取り入れ、具体的操作活動をすることで、日本語が不十分である外国籍の生徒にとっても、学習内容を把握・理解することができます。
- ② 国によって指導する数学の内容や指導学年が異なっているばかりでなく、最近の国際比較研究から、教師の授業の進め方や授業に対する考え方が国によって異なっていることが明らかになりつつあり、このような観点から内容面ではなく方法面に着目し、数学における「授業の学び方（学びの作法）」を理解することによって、日本の数学の授業に参加する準備ができます。

(2) J S L 数学科のねらい

- ① 教科と日本語の接点として、「絶対値」「数直線」「錐体」等、数学の学習活動に必要な用語や「(点 a を) とる」「(解を) 導く」といった数学特有の言語表現への対処が必要となります。語彙や表現を単に覚えさせるのではなく、活動を通して分かりやすく提示し、意味を理解させることが目的です。
- ② 日本のように筆算を重視している国は世界全体から見ると少数であり、小学校では分数の概念の学習までしか行わない国も多くあります。これまでにどんな内容を、どのような授業形態で学んできたかをつかんでおくとともに、生徒が学習していた国の言語における数学用語を把握しておき、日本語に置きかえます。
- ③ 例えば、「二等辺三角形」は、三角形の特別な形であり、「○○三角形」と命名されている一方で、「ひし形」「正方形」等、四角形では特別な名称が与えられています。単に用語の説明だけでなく、数学用語の背景をつかませる必要があります。
- ④ 具体的な操作が伴っていれば、授業で何が行われているかを把握できます。道具を使って生徒に活動させることで、操作(行為)と言語活動が対になって、日本語そのものの習得につながります。また、取り出し指導では、在籍学級での指導内容について、具体物を用いて、日本語の力に応じた指導をするとともに、不足している数学的概念、数学的内容、計算方法、定規・コンパス・分度器の使い方等をその都度補充します。

(3) 学習活動の例 1年 垂直二等分線

JSL生徒は出身国での学習歴や学習方法の違いの関係で、図形の領域には不慣れな場合が少なくありません。平面図形の基本的な項目を扱いながら、図形の領域に頻出する用語や作業の指示、作図に慣れることを目指します。

学習活動	
<p>【導入の問】 紙に線分 AB をかき、点 A と B が重なるように折ってみよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">「紙を開いたとき、折り目の線は真ん中と言えますか？」</div> 	<p>教師の指示を理解して作業ができ、教科特有の言葉を獲得させたい生徒を想定。</p>
<p>折り目の線を l とし、l と線分 AB の交点を M とする。</p> <p>$l \perp AB$、$AM=BM$ となることを説明しよう。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>図のように、点 M が AB 上の点で、$AM=BM$ であるとき、点 M を線分 AB の「中点」という。また、中点 M を通り、AB に「垂直」な直線 l を線分 AB の「垂直二等分線」という。</p> </div>	<p>【支援のポイント】</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>具体的に質問をして、どの程度、日本語を理解しているか把握する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>垂直二等分線にふりがなを振り、「中点」「垂直」「二等分」「線」のそれぞれの意味を自分の言える日本語で説明させる。</p> </div>
<p>【展開の問】 「<u>図の直線 l 上に点 C をとり、C と A、C と B をそれぞれ結ぶと、$AC=BC$ になりますか。</u> また、<u>l 上に点 C 以外の点をとったときも同じことがいえますか。</u></p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>「点 C をとる」の意味が理解できているかどうかを実際に線分上に点をかけるか確認する。</p> </div>
<p>図を書くことを通して、線分 AB の垂直二等分線上の点は、2点 A、B から等しい距離にあることを理解する。</p> <div style="text-align: center;">  </div>	<p>紙を折る操作を通して、線分 AB の垂直二等分線上の点は、2点 A、B から等しい距離にあることを理解する。</p> <div style="text-align: center;">  </div>

定規やコンパスの使い方を確認する。

紙を折る作業を複数回繰り返し、できた折り目と AB との関係日本語で説明させる。

8 中学校 理科

(1) 日本語を母語としない生徒にとっての理科

- ① 理科は、具体的な事物を対象とした実験や観察を核として学習が進行し、グループ単位での活動が多く組み込まれている教科です。実際に、具体的な対象を見ながら、あるいは操作しながら学習を進めることができ、他の生徒からの援助も得やすいため、日本語の力が不十分な生徒でも授業の流れについていくことは比較的容易であると考えられます。
- ② 道具や事物の名称に普段使わないものが多く、それが学習の妨げになることがあります。また、単位等の表記の仕方が日本語と違う国があります。

(2) J S L 理科のねらい

- ① 中学校の理科で取り扱うすべての内容を生徒が理解することを目的とはせず、中学校理科の学習の核となる理解に深く結びついた基本的内容を精選し、それを着実に生徒に獲得させることによって、その後の学習の「足場」を提供します。
 - (1) 具体物の観察や操作を丁寧に行うこと
 - (2) 授業を細かいステップに分けて展開すること
 - (3) 生徒が困難を経験しやすい日本語の問題に手厚い支援を用意しておくことこれらを通して生徒が授業にスムーズに参加できるよう配慮したうえで、経験を科学的な理解に結び付けていく活動を日本語で行うことを支援します。
- ② 授業ではできるだけ具体物の観察、実験を行います。観察、実験を実際に行うことが難しい場合にも写真やビデオ、グラフやイラストを積極的に活用し、日本語の理解とともに、授業を理解しやすいように工夫をします。
- ③ ワークシートが授業展開に対応していることで、生徒が授業展開（今何をしているのか）を把握しやすくなります。イラストや穴埋め式の解答欄等によって容易に授業に参加することができるようになり、教師が生徒の理解状況を把握する際にも役立ちます。

(3) 学習活動の例 2年

電流とその利用

日常会話ができ、自分の考えを日本語で表現するのが苦手な生徒を想定。

学習活動	
【STEP 1 導入実験】 引きつける力の存在を認識させる	<p>この風船は何かにくっつきますか。</p> <ul style="list-style-type: none">・黒板や机にはくっつかない。・帯電しやすい服を脱ぐことで、引き付けられる。
【STEP 2 用語】 摩擦によって静電気が発生し、それが「静電気」だということを理解させる	<p>みんなも下敷きを頭にこすってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none">・たくさん髪の毛が付いた。・風船も付いた。 <p>髪の毛や風船をくっつけた力を「静電気」と言います。</p>
【STEP 3 課題設定】 静電気の性質を予想させる	<p>静電気にはどのような性質がありますか。</p> <ul style="list-style-type: none">・どうしたら静電気が起きるのだろう。・たくさん起こすにはどうすればいいのだろう。・どうしてくっついたのだろう。 <p>服を脱いだときにパチパチしたことがあるから、何かがこすれたときに静電気が起きます。磁石と同じような性質があります。</p>
【STEP 4 実験】 静電気の性質を調べる	<p>ストローを包んでいる紙袋やティッシュペーパーでよくこすってみよう。こすったストローにこすったストローを近づけるとどうなりましたか。</p> <p>いろいろなもの（布・プラスチック・金属等）をこすって、ストローに近づけてみましょう。</p>
【STEP 5 考察・まとめ】	<p>実験の結果から考えられることを話し合ひましょう。</p> <ul style="list-style-type: none">・ストローをこすってもパチパチしなかった。静電気はできなかったのかな。・ストローに紙を近づけるとくっついた。先生がやった風船の実験と同じだから静電気が起きたのではないか。・くっついたり離れたりするの磁石みたい。N極とS極みたいな関係かな。 <p>ワークシートを完成させて結果をまとめましょう。</p>

【支援のポイント】

「くっつく」の理解ができない場合、磁石等を利用して補充する。（たとえ）

言葉が難しい場合は現象としてとらえる程度にとどめる。（厳選）

摩擦は難しいので「こする」でよい。（換言）

「性質」が分からない場合、パチパチやくっつくなどの例を挙げて説明する。（例示）

生活経験や学習経験によってヒントを活用する。

「どうなりましたか」の発問に答えられない場合は、解答例を示して選ばせる。（例示・許容）

活動を通して道具や操作名称を理解できるようにする。

気付いたこと、考えたことを、対象生徒の日本語力で記述させる。

9 中学校 外国語科

(1) 日本語を母語としない生徒にとっての英語科

- ① 国際的な共通語として英語を使用する観点から、英語によるコミュニケーション能力は、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定されます。また、生徒がコミュニケーションを図る楽しさを授業で体験することは、人と関わりをもとうとする動機付けになります。英語での言語活動を授業の中心に位置付け、英語で授業を行うことを基本とするため、生徒の実態に即して必要に応じて日本語支援を行います。
- ② 補助的に日本語で指示したり説明したりする際に、生徒が理解しやすく、分かりやすい日本語を使用します。取り出し指導で、テスト等でよく使われる日本語表現に慣れさせておくとともに、コミュニケーションを支えるための文法指導や高等学校への進学後に使用が想定される文法用語等、必要に応じた日本語支援を適宜行いますが、必要最低限にとどめるよう留意します。

(2) J S L 英語科のねらい

- ① 日本語を母語としない生徒の生活歴、学習歴、言語能力等は多様であり、特に英語力には幅があります。英語の力があり、日本語の力が不十分な生徒に対しては、英語力を生かした指導が可能ですが、日本語の力も英語の力も不十分な生徒に対する指導については、母国での英語学習の内容や日本の小学校外国語活動・外国語科の経験の有無等を含め、どのように英語を学んできたかをつかみ、生徒の実態に応じて指導できるようにします。
- ② 絵や画像等を活用して視覚的な支援を充実させ、学習課題や目的、場面、状況等を生徒が理解しやすくしたり、学習の流れ等を提示して生徒が見通しをもって取り組むことができるようにしたりします。
- ③ 学習意欲を高めるには、生徒の肯定的な自己概念の形成が不可欠であるため、英語学習を通して生徒のアイデンティティや母文化に配慮しつつ、英語の運用能力を付ける工夫を行います。
- ④ 多言語翻訳システム等を活用し、英語、日本語、母語を往還しながら相互に理解が進むようにするなど、ICTを活用し、英語、日本語、母語への理解の充実を図ります。

(3) 学習活動の例 1～3年共通

五つの領域の言語活動

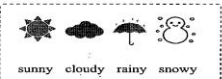
周囲とコミュニケーションが十分とれている生徒を想定。

【支援のポイント】

学習活動


【聞くこと】
 ・英語を聞き、天気(weather)の欄に合う絵を、気温(temperature)の欄に数字を書きましょう。
天気を表す絵


weather temperature
 _____ °C



sunny cloudy rainy snowy

解答例




weather temperature
 14°C

weather temperature
 _____ °C

weather temperature
 _____ °C

【話すこと [発表]
 学習課題：自分の出身地にあるものを紹介する動画を作ろう。
 I'll introduce Chinese traditional crafts.
 Japanese people call it *Chugoku-musubi*.
 It's a cute decoration made of strings.
 It's used for clothes, musical instruments and so on. Chinese people have loved it for a long time. You can buy it in China as a present.



【話すこと [やり取り]
 Today's topic is "Where do you want to go?" Let's start talking.
 S1: Where do you want to go?
 S2: I want to go to Australia.
 S1: Why do you want to go there?
 S2: Because I want to see koalas.

【読むこと】
 "Read the story and try some questions."
 ・登場人物の説明として最も適切なものをア～エの中から選びましょう。
 ①Charlie () ②the girl () ③the rich man ()
 ア popular イ poor ウ forgetful エ blind
 ・次の文が内容と合っていれば○を、違っていれば×を()に書きましょう。
 ①Charlie met ()
 ②The rich man gave ()

【書くこと】
 ・次の言葉の意味や、自分がそれについてどう思うか書きましょう。
 [non-violence]
 Non-violence is a word that means "being kind to everyone." I think kindness is very important. I want to be kind to all the people.

【振り返り】
 Let's review today's class.

クラスルームイングリッシュに慣れさせる。

問題の指示を分かりやすい日本語で説明する。
 絵や解答例を提示して、活動内容が分かるようにする。

母国の内容等を取り入れられるよう課題を工夫する。
 英語を使いながら英語特有の概念に慣れさせる。

意欲的にペアとのやり取りをしているか様子を確認する。
 小学校での学びがある場合はそれを生かす。

ICTを活用して、母語を通して英単語を理解することで、英文の内容を理解して問題に取り組んだり、英語で表現したりする。

取り出し授業等で問題の指示等、日本語を指導する。

振り返りを活用して、生徒の実態や、つまずきの内容を把握する。